

社会科学習指導案

日時 平成18年11月1日(水)
生徒 士別市立士別南中学校 3年C組
男子12名, 女子17名, 計29名
授業者 高橋章友

1. 単元名 第3章 わたしたちの暮らしと経済
第2節 政府の経済活動「政府の経済活動～政府と経済」

2. 単元について

公民的分野の目標のひとつに、「民主政治の意義, 国民生活の向上と経済活動とのかかわり及び現代の社会生活などについて, 個人と社会とのかかわりを中心に理解を深めるとともに, 社会の諸問題に着目させ, 自ら考えようとする態度を育てる」とある。またこの単元の前段では、「国や地方公共団体が果たしている経済的な役割について考えさせる」として、「国民生活の向上と福祉の向上を図る上で市場の働きにゆだねることが難しい諸問題を取り上げ, 国や地方公共団体が果たしている経済的な役割について具体的に考えさせる」となっている。さらに, 後段では「社会資本の整備」について、「社会資本が多く経済活動を円滑に進めるために必要な基礎的施設として, 間接的に経済の発展に役立つことについて理解させるとともに, 我が国の社会資本の現状及び社会の変化を踏まえ, 福祉の向上を図る上で生活に関連した社会資本の充実が必要であることに気付かせる」としている(『中学校学習指導要領-社会-』)。

しかし, 生徒にとって経済活動は遠い存在である。この単元の学習では、「教科書」などの身近な事例を通して, 家計・企業・政府の三者の関係や, 景気, 社会保障について調べたり, 発表する力をつけさせたい。さらに, 労働の現状や少子高齢化, 社会資本の充実などの事例から, 現代社会が抱える課題について認識を深めさせたい。

3. 生徒の実態

男子12名, 女子17名の明るく元気なクラスである。授業への取り組みも意欲的で, 発言が活発な生徒も多い。他方, 発言に消極的な生徒, 社会科自体に興味・関心を示さない生徒, 最初から社会科に苦手意識をもつ生徒も若干いる。

学級の生徒の全体的な傾向は, 以下のようなデータからうかがえる。

(1) 1学期の観点別評価と評定

A = 3, B = 2, C = 1 とおき, 29名の評価・評定を平均値で表すと次のようになる。

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解	5段階評定の平均

削除

・評価の対象

関心・意欲・態度・・・ノート, ワークの記入のようす, また提出状況, 授業中の発言のみとり等から判断した授業への参加のようすなどを判断基準にしている。

思考・判断・・・授業中の発言やワークシートの達成状況, ペーパーテストの得点状況などを総合的に判断している。

技能・表現・・・授業の発表のようす, 技能・表現をみる記述式問題の達成度によって総合的に判断している。

知識・理解・・・授業の取り組み状況や, ペーパーテストの達成度によって総合的に判断している。

(2) 6月22日, 8月30日, 9月13日(総合A)実施の学力テストの結果から
(主に知識・理解の実態と考えている)

6月22日	8月30日	9月13日	3回の平均点

削除

(1), (2)の結果から, 29名の生徒の学習状況について, 以下のようにまとめた。

「思考・判断」に関してはやや高めであり, 「技能・表現」「知識・理解」についてはやや低めである。このことから, 社会的事象に対しての考察はやや得意であるとしても, それらを適切に表現することができない。また, 獲得した知識を自分のものとして定着することができていない実態がうかがえる。

このような実態から, 「思考・判断」については比較的高いというC組の生徒の長所を伸ばし, 「技能・表現」や「知識・理解」の項目も同時に伸ばしていくために, 生徒の興味・関心を高める教材・教具の工夫が必要であると捉えた。

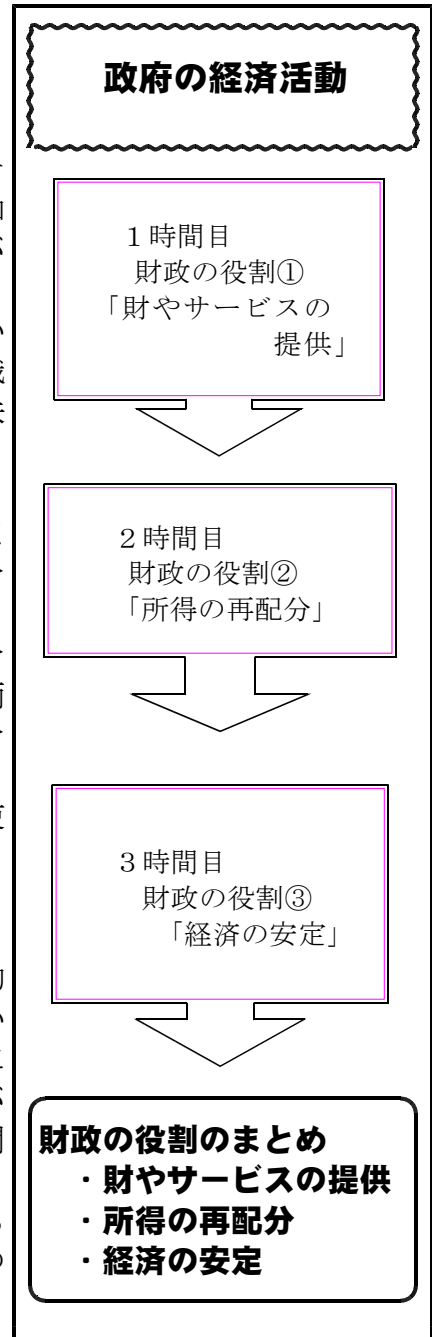
これらの実態をふまえて次のように指導していきたい。まず, 生徒にとって身近で必要感のある教材・教具の選択を行った。そこで「教科書の値段・供給」の事例を通して, 政府の経済活動が決して自分たちとは無縁ではないことをつかませる。また, 「橋の建設」や「生徒がよく購入する商品」などの例を通して, 家計と政府, 家計と企業の間係をつかませることを意図した。

次に, 生徒の理解を促す単元構成の工夫を行った。本校使用公民の教科書では, 政府の財政の役割として, 最初の1時間目に(ア)財やサービスの提供, (イ)経済の安定, (ウ)所得の再分配(累進課税制度), の3つを同時に挙げている。しかし, この構成のままでは, 社会科嫌いの生徒に抽象的な事象を直接示すことになってしまい, ますます社会嫌いを助長すると考えた。よって本単元では, まず1時間目に(ア)の部分だけに絞り, 具体例を挙げさせながら生徒がじっくり考える授業を行いたい。教科書では, この1時間で税金の種類と特徴にまで触れることになっているが, ここは2時間目に残しておき, 累進課税制度に触れながら(ウ)を理解させたい。さらに3時間目では景気の変動の事例を考えさせた

い。

3時間が終わったあとで, 実は政府の財政の役割は3つあるということに気付く構成にすることで, より生徒の実態や思考の流れに沿うものになると考えている。

(上図参照)。



4. 単元の目標

家計・企業・政府の三者の関係や、景気、社会保障について意欲的に調べたり、発表したりしながら政府の経済活動の理解を深め、さらに労働の現状と少子高齢化、社会資本の充実などの事例から、現代社会が抱える課題について認識を深めることができる。

5. 指導計画（6時間扱い）

学習項目	主な学習内容 ・活動	観点別評価				指導方法・ 指導体制	仮説と の関連
		関心・意欲	思考・判断	技能・表現	知識・理解		
1. 政府の経済活動 ～政府と経済～ 本時（1時間） 財政の役割① ・財やサービスの提供	政府の経済活動と、家計や企業との結びつきについて、財やサービスの提供という観点から考える。	政府・家計・企業の三者の結びつきについて、興味・関心を持っている。				一斉 学習	①②
2. 国のお金のやりとり ～ふえる政府の借金～ （1時間） 財政の役割② ・所得の再分配	税金の種類と役割について触れながら、所得の再分配について考える。また、公債の問題点を考えることから、国と地方公共団体の財政の関係について考える。		累進課税による所得の再分配を考察している。			一斉 学習	①②
3. 経済の安定を求めて ～景気の調整～ （1時間） 財政の役割③ ・経済の安定	景気変動が国民生活に与える影響について考える。また、政府の経済政策が経済の安定に不可欠であることを学習する。				政府の財政政策と日本銀行の金融政策について説明している。	一斉 学習	①②
4. 安心して働く ～経済生活を支える労働～ （1時間）	働くことの意味を理解し、労働条件や働く権利について考える。	将来の職業について関心を持ち、労働条件の変化などを意欲的に調べている。				一斉 学習	①②
5. 安心と生きがいのある暮らし ～社会保障のしくみ～ （1時間）	社会保障の意味や、日本の社会保障制度について理解する。			社会保障の意味や、日本の社会保障制度について調べ、わかりやすく発表している。		一斉 学習	①②
6. 豊かな暮らし （1時間）	どのような社会資本が整備されることが、生活の充実につながるのかを考える。		福祉の向上を図る上で、生活に関連した社会資本の充実が必要であることを気付いている。			一斉 学習	①②

6. 本時の展開

(1) 本時の目標

教科書価格の事例などから、家計、企業、政府の関わりを考え、三者の関係について関心を高める。
(社会的な事象についての関心・意欲・態度)

(2) 教材・教具の工夫

①教科書の価格表の提示 (仮説①)

毎日使用している教科書でありながら、その費用について誰がどのように負担し、どのように供給されているかを詳しく知っている生徒はほとんどいないであろう。教科書の価格にふれながら、公的負担の大きさに気付かせるねらいである。

②ワークシートの工夫 (仮説①)

教科書の価格や供給、教科書で取り上げられている橋の建設などの他に、家計、企業、政府の関係で成り立っている事例を生徒に考えさせる。

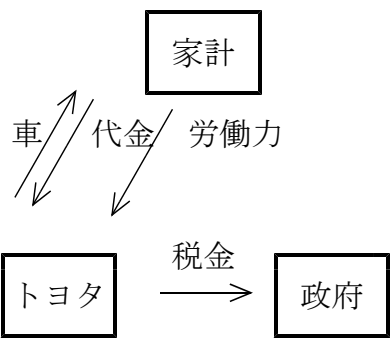
その際、あらかじめ「政府・企業・家計」と書いたワークシート (掲示用の教具として模造紙など) を用意する。

③付箋紙の使用 (仮説②)

経済の三主体の一つである政府がなければ、家計や企業にどのような影響があるのか、生徒に発表させ、視点を絞った話し合いを促す。

(3) 本時の展開 (1 / 6 時間)

	生徒の動き	教師の働きかけ	仮説	留意点
課題把握	<p>○教科書の後ろを見て、答えを予想する。</p> <p>・「定価 文部科学大臣が認可し官報で告示した定価？」</p> <p>・「だいたい 500 円くらい？」</p> <p>・10,000 円くらい？」</p>	<p>○いつも使っている公民の教科書はいくらかを問う。</p> <p>○身近な教科書の活用 (教材・教具の工夫①)</p> <p>・答えは 695 円であることを告げる。</p> <p>○3年生の使っている教科書は、総額いくらかを予想させる</p> <p>・答えは 13,512 円であることを告げる。</p>	①	<p>・教科書の価格表配布</p> <p>・教科書は閉じさせておき、自由に発想させる。</p> <p>・ワークシートに記入させる。</p>
課題解決	<p>3時間の課題 政府の経済活動は、私達の暮らしにどのように役立っているのか、考えよう。</p>			
課題解決	<p>今日の課題 「政府、企業、家計の三者がかかわっている経済活動を探そう。」</p>			
課題解決	<p>○予想される解答。</p> <p>・教科書を作っている人 →教科書会社 (企業)</p> <p>・教科書を発行している人 →文部科学大臣 (政府)</p> <p>・教科書を使用している人 →全国の中学生</p> <p>・(教科書のお金)「税金で</p>	<p>○教科書を作っているのは誰か、教科書を作らせている人は誰か。教科書の代金はどこから来ているのかを問う。</p> <p>○教科書はただで配られているのに、どこからお金がでてくるのか、考えさせる。</p>	①	○記入について机間指導を行う。

生徒の動き	教師の働きかけ	仮説	留意点
<p>賄われている（家計）」</p>	<p>○教科書について，企業，政府，家計の関係をワークシートで確認させる。（黒板の模造紙で示す） ○教科書の他に，橋の例についても考えさせる。</p>		
<p>「教科書以外の物について，企業，政府，家計の3つが関わっている物を探し，その関係をワークシートに図示しよう」</p>			
<p>○予想される解答 例) トヨタ自動車</p>  <p>○経済の三主体を確認する。</p> <p>○政府の経済活動の役割①「財やサービスの提供」をワークシートを使って確認する。</p>	<p>○ワークシートの工夫 (教材・教具の工夫②)</p> <p>○ワークシートへの記入の仕方を教科書の例を使って説明する。 ○ワークシートの記入状況を確認する。 ・家計・企業・政府の関係の図で，すべての矢印が満たされなくてもよい。（左図参照。） ○トヨタのような私企業の例と，公共事業の色合いの濃い事例を分けて考えさせる。 ○経済の三主体（家計，企業，政府）を確認する。</p> <p>○財政における役割①公共的な「財やサービスの提供」をおさえさせる。</p>	<p>①</p>	<p>・特に，公共的な事例（橋や道路，医療など）に注目させる。</p>
<p>「もし，この三者の中で政府がなかったら，どうなるだろうか。良い点，悪い点を一つずつ，付箋に書いてください」</p>			
<p>○予想される生徒の答え 【良い点】 ・「税金を払わなくても良い」 ・「国のお金を使わなくても何でも自由に売り買いできる」 【悪い点】 ・「教科書を買わなくてはならなくなる」</p>	<p>○付箋紙の使用 (教材・教具の工夫③)</p> <p>○付箋の記入状況を確認。 ○良い点，悪い点を生徒自身に黒板に貼らせる。 ○似た内容のものをまとめて整理する。</p> <p>○デメリットに注目させ，政府が経済活動に与える影響が大</p>	<p>②</p>	

	生徒の動き	教師の働きかけ	仮説	留意点
	<ul style="list-style-type: none"> ・「お金持ちはいいけど、そうでない人は政府の手助けが必要」 ・「企業のやりたい放題になってしまい、お金儲けに走るので商品の値段が上がっていく」 ・「橋や道路が造られなくなる」 	<p>きいことを理解させる。</p> <p>○所得の再分配に気付くように促す。</p>		<p>○机間指導によって、アドバイスをを行う。</p>
定着・発展	<p>○政府の経済活動の果たす役割には、財やサービスの提供だけではなく、所得の再分配という意味があることに気付く。</p>	<p>○政府の経済活動に不可欠なもの何か、問う。</p> <p>○税金の重要さに触れたところで、次時に累進課税の学習をすることを予告。</p>		

(3) 本時の評価

【社会的な事象についての関心・意欲・態度】

教科書等の身近なものから、政府の経済活動が、国民の生活に密着していることを考えさせる。

→発言や、ワークシートへの解答状況、発表での討議を通して評価する。

研究にかかわって

①この授業における教材・教具の工夫が基礎・基本の定着に効果的であったか。

ア) 教科書価格表の提示 (仮説①) →ワークシートの記入や発言から評価する。

イ) ワークシートの記入 (仮説①) →ワークシートの記入内容から評価する。

②教科指導において、教材・教具を工夫することで、学習課題を見つけ、その解決に向かって進んで学習する生徒を育成できたか。

ア) 付箋紙の内容に対する討論 (仮説②) →付箋紙に記入している内容や授業中の発言から評価する。